

大妻女大家政 前川當子 八倉巻和子 吹野洋子 伊藤令子 榎本美代子
○飯島利津子 森岡加代 竹田由美子

目的 嗜好は人々が食品・料理を選ぶ際の条件となり、個人の生理、心理そして食習慣などの内的因子と経済、食品流通、外食産業、そして情報などの外的因子によって影響されることが多い。筆者らは、第1回調査を昭和43年に実施し、10年を経過した今回この年代の生徒・学生の嗜好傾向を追求し、食生活の問題について提言することを目的として本研究調査を実施した。

方法 対象：都市周辺の中学生・高校生・大学生12～22歳までの男女1573名を対象とした。時期：昭和54年6月13日から30日。方法：所定の用紙を配布し、記入後直ちに回収するよう依頼した。項目：アンケート調査はフェイスシートと食生活状況について設問した。嗜好調査は食品134種、料理167種について、各々大好き、好き、嫌い、大嫌い、どちらでもない、知らないを記号で付してもらった。回収率は96.8%、有効集計数は1489票であった。

結果 食品について、①嗜好度の高い(好き)のは果実類であり、次いでヨーグルト・アイスクリームそして菓子類があげられる。②嗜好度の低い(嫌い)のは春菊・うど・パセリ・セロリなど特に香りの強い食品である。女子の生徒・学生の場合はレバーを嫌っている。各年齢層で豆乳やおからが嫌われている。料理について、③好まれる料理は、すし・ヌードル類・ハンバーグ・サンドウィッチ・ピザパイ・カレーライス・鶏のから揚げなどである。特に前回調査と比較して外食産業の影響が大きいと考えられる。④嫌われるのは魚類を使った料理である。